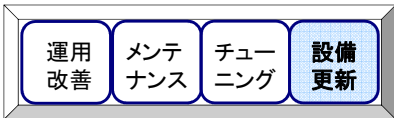


ファン・ポンプのインバータ化



- ファンやポンプのモータをインバータ化することで節電になります。
(ダンパまたはバルブを全開に戻し、実負荷に応じた回転数制御を行うことで、モータ負荷が下がります)

試算例

風量60%の排気ファンのモータをインバータ化すると...

- 節電効果 : **節電効果 22万円/年** 【高圧電力S単価を適用】
節電電力 約 9.3kW
節電電力量 約 14,400kWh
6,400kWh(夏期), 8,000kWh(冬期)

- 対策内容 : ファンモータのインバータ化

- 計算式 : 節電電力(kW) = 消費電力(設備分) × 削減効果
 節電電力量(kWh) = 節電電力 × 対象時間 × 対象日数

(試算条件)

消費電力(設備分): 7.5kW × 2台
 削減効果: 62%(ダンパ調整効果△15%, インバータ効果△77%)
 ⇒ 77% - 15% = 62%
 対象時間: 11時間/日(9:00~20:00)
 対象日数: 夏期63日/年(7~9月の平日), 冬期79日/年(12月~3月 平日)

ポイント

- **インバータ化(回転数制御)**すると、電動機の消費電力が回転数の**3乗に比例して削減**します。(実際は、インバータの変換効率で若干削減率が低下します)
- ダンパおよびバルブが絞られておらず、ファンやポンプが常に定格運転状態の場合、インバータ化しても効果はありません。
- 精密機器がある場合は、必要に応じインバータから発生する高調波対策を図る必要があります。
- 既にインバータ対応されている場合も、適正周波数に見直しをすると、更なる節電効果拡大の可能性がります。

参考

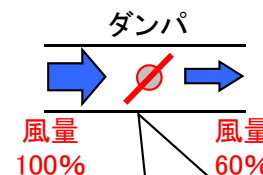


排気ファン

ダンパで必要風量に抑えている



ダンパ

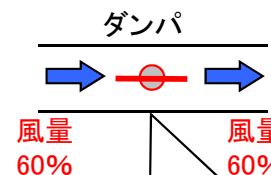


ダンパでブレーキ(ロスが生じる)

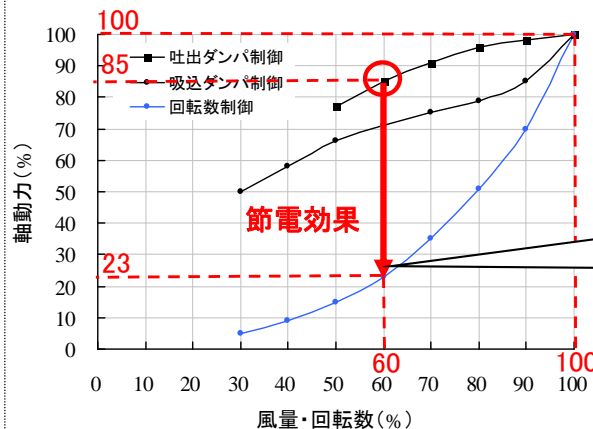
ダンパの代わりにファンの回転数を下げ風量調整



インバータ



ダンパ全開(ロスが小さい)



各種風量制御方式の消費電力特性

注) 本内容はお客様の運用状況等によって異なる場合がございます

ダンパ調整とインバータ化を比較すると、同じ風量でも約62%の消費電力が削減